

第1章 雪国の現状と今後の展望

我が国の雪国は、世界でも類をみない多雪地帯にもかかわらず、独特の豊かな伝統と文化を育んできた。また、かつては冬期に地域間の交通が遮断され、孤立した生活を余儀なくされる「閉ざされた地域」であったが、今日では、冬期道路交通の確保が図られることに伴って交流が進み、我が国の人口の1/4に匹敵する約2,800万人もの人々が生活するとともに、食料や豊かな自然を提供する重要な地域となっている。

一方で、雪国においては、高齢化や中山間地域を中心とした過疎化の進展が他の地域よりも一層顕著に進行することが予想されており、雪国が担っている様々な機能を持続的に維持し、次世代に引き継いでいくことが、雪国ばかりではなく、我が国の国土を保全していくためにも大きな課題である。

魅力ある雪国づくりを支援する道づくり、冬期道路管理のあり方を考えるためには、これらの課題を踏まえる必要がある。

1. 雪国の現状

世界でも類を見ない多雪地帯

○わが国の雪国は、低緯度で世界有数の降雪量を伴う多雪地帯にあり、国土の約6割を占める23万km²の面積に約2,800万人もの多数の人々が生活している。

近年の少雪化傾向と異常豪雪の発生

○近年では、長期的に見れば雪国では少雪化傾向にあるものの、異常豪雪が突然発生するなど雪の降り方も大きく変化してきている。

道路が唯一の交通手段

○雪国では、他の交通機関の発達していない場合が多く、また、積雪や路面凍結により徒歩、自転車、バイクなどによる移動が困難になるため、冬期は一層自動車への依存が高くなっている。

地域間交流・日常生活圏の拡大

○地域間交流の進展に伴って、通勤通学、買い物などの日常生活圏が拡大し、通年を通じた周辺市町村との相互依存関係がますます深まりつつある。

Column

～生活に大きな影響を与える雪～

38豪雪
(長岡市内)



平成12年の大雪
(青森市内)



■世界でも類を見ない多雪地帯

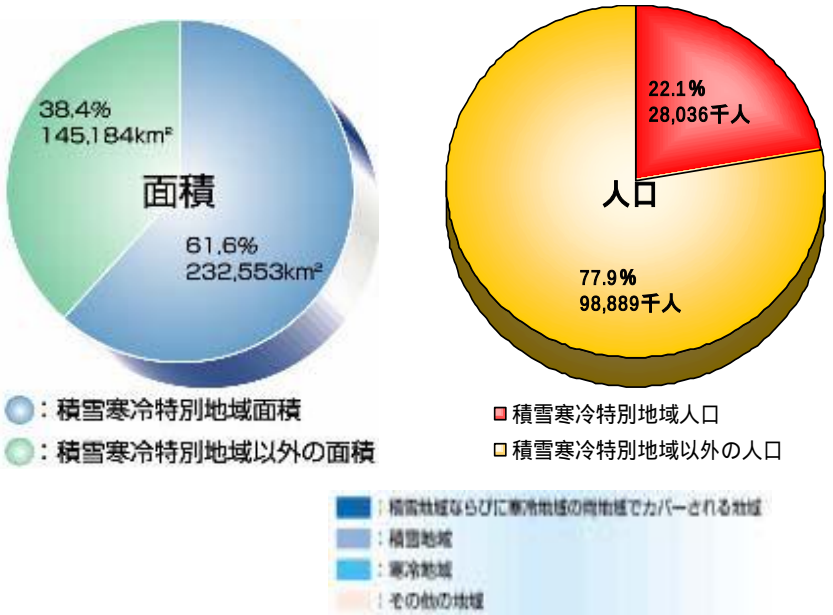


図1 雪国の人口と面積 資料：平成12年国勢調査

■近年の少雪化傾向と異常豪雪の発生

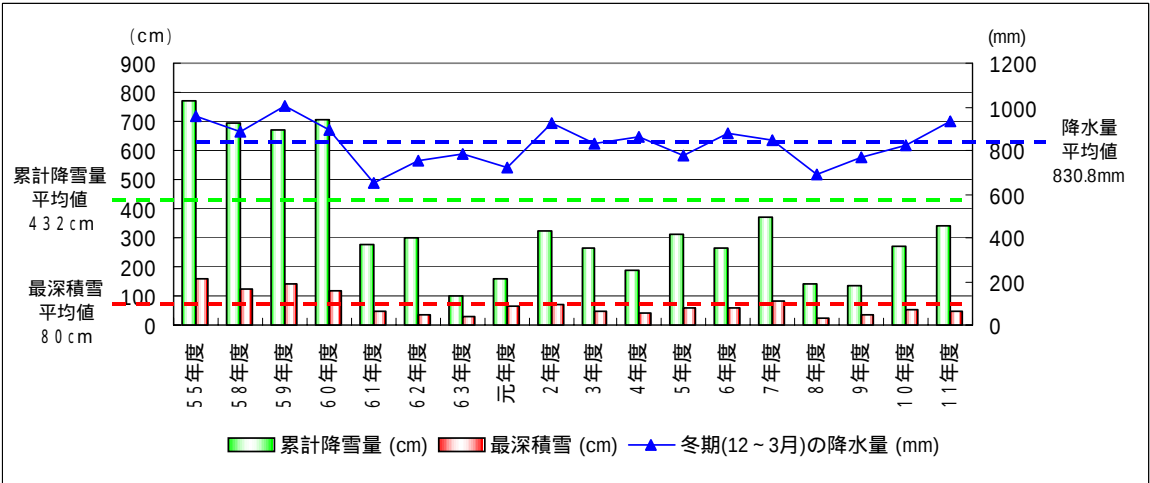


図2 富山市の累計降雪量・最深積雪・冬期(12～3月)降水量の経年変化 資料：平成13年富山県総合雪計画

■道路が唯一の交通手段

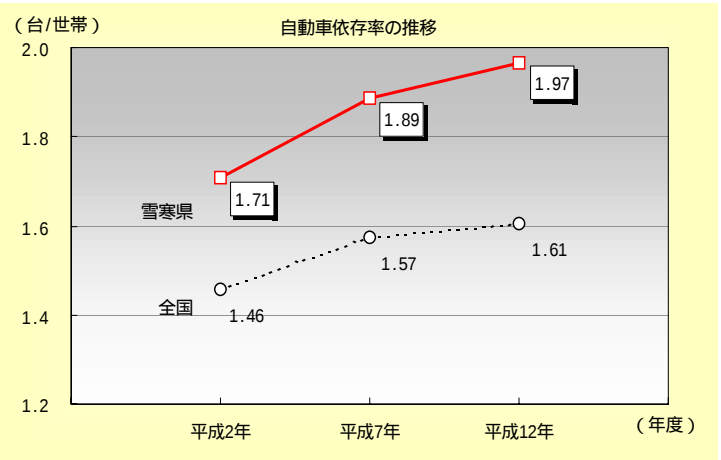


図3 1世帯あたりの自動車保有台数の推移

資料：自動車保有車両数月報

雪寒県：北海道、青森県、岩手県、秋田県、宮城県、山形県、福島県、新潟県、富山県、石川県、福井県、長野県、鳥取県、島根県

雪寒県とは、積雪地域に属する道府県において、当該地域の人口及び面積が、道府県の50%以上に該当する場合

中心市街地の空洞化

○雪国においても、ライフスタイルの変化、モータリゼーションの進展等により、商業・公共施設が郊外移転し、中心市街地の商業・サービス機能の空洞化が進行している。

深刻な高齢化・過疎化の進行

○日本全体が高齢化社会へと移行する中で、雪国では高齢化が全国平均を上回る勢いで進行している。また、雪国の多くは関東圏、関西圏などの大都市圏への人口の移動が予想されており、過疎化の進展も予想される。

少子高齢化・核家族化に伴う雪への対応力の低下

○雪国における少子高齢化・核家族化の進行に伴って、かつては世帯や地域コミュニティー単位で行われていた雪処理の能力が低下しているため、各世帯における消雪屋根などの設置や地域住民による除雪費の協同積立てなどによる対応もみられる。しかしながら、道路の除排雪については、公共への依存が一層高まっており、雪処理に対する公共意識の消失が進行している。

■ 中心市街地の空洞化

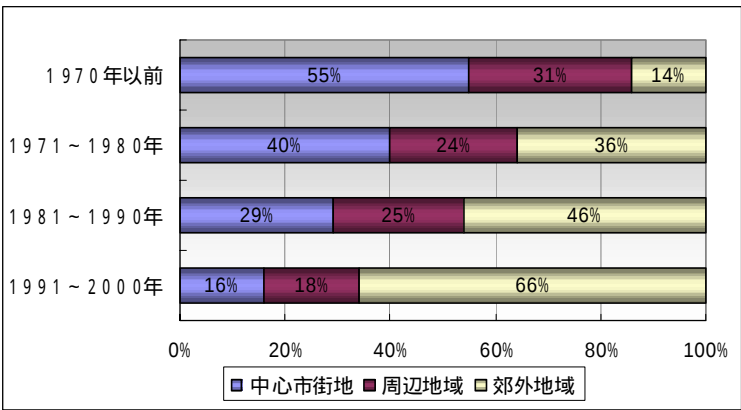


図4 ショッピングセンターの立地推移(東北6県) 資料:国土交通省



空店舗が目立つ中心市街地

■ 深刻な高齢化・過疎化の進行

平成12年(2000年)

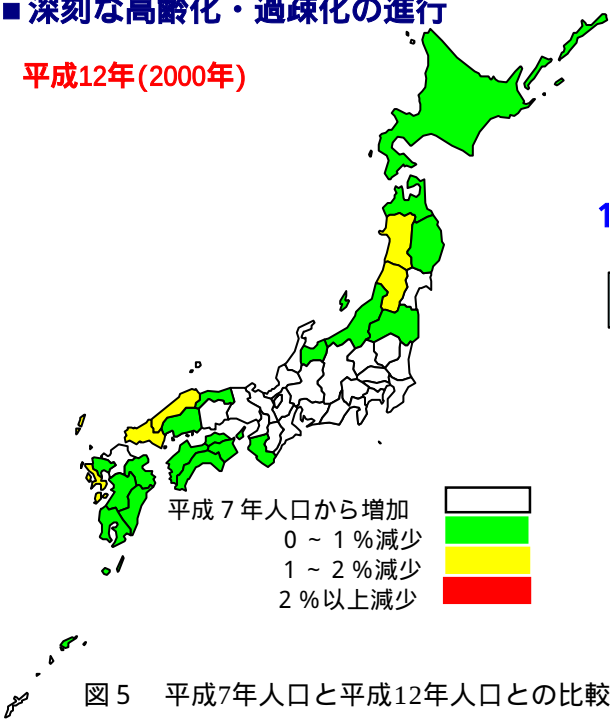


図5 平成7年人口と平成12年人口との比較

平成22年(2010年)

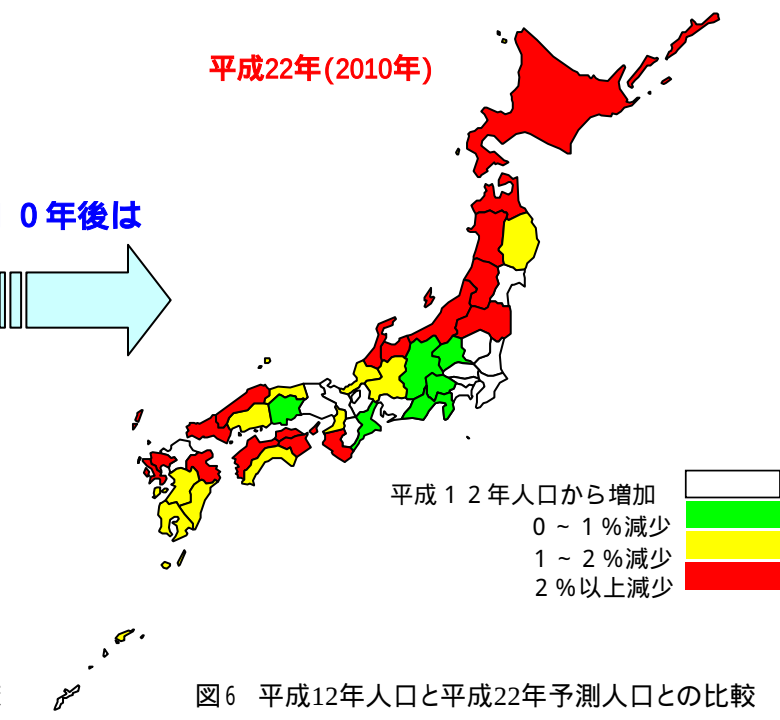
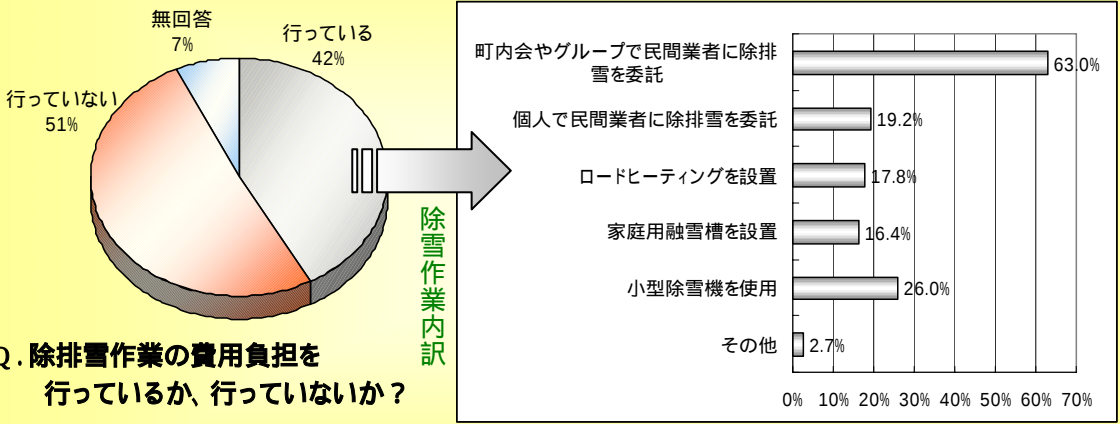


図6 平成12年人口と平成22年予測人口との比較
資料:国立社会保障・人口問題研究所

Column

～雪への対応力の低下に関する地域住民の対応事例～



資料: H13 年冬期道路環境改善社会実験(北海道・小樽市)

Q. 除排雪作業の費用負担を行っているか、行っていないか?
調査対象: 小樽市内の町内会
回答数: 174
(81%が60歳以上の回答者)

■ 少子高齢化・核家族化に伴う雪への対応力の低下

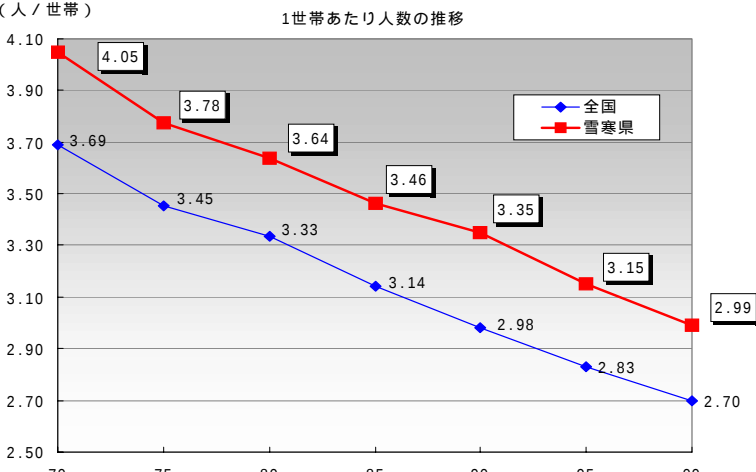


図7 全国と雪寒県の1世帯当り人数の推移 資料:国勢調査

雪寒県: 北海道、青森県、岩手県、秋田県、宮城県、山形県、福島県、新潟県、富山県、石川県、福井県、長野県、鳥取県、島根県

雪寒県とは、積雪地域に属する道府県において、当該地域の人口及び面積が、道府県の50%以上に該当する場合

2. 雪国の今後の展望

豊富な国土資源の経済、社会への貢献

- 我が国は主要先進諸国と比較しても低い食料自給率であるが、雪国では豊富な国土資源を活用して食料自給率が高く、今後においても、我が国の食料の安定供給を支えていく地域としての役割が期待される。
- 我が国の雪国のGDPは約7000億ドル（平成10年度、1ドル=130円で試算）に達しており、北欧4カ国（デンマーク、フィンランド、スウェーデン、ノルウェー）の約6900億ドルやカナダの約6100億ドルに匹敵するとともに、地理的特性を生かし対岸諸国との活発な交流を行っており、アジア諸国との交流窓口としての機能が期待される。

美しい自然と歴史ある伝統、文化の活用

- 我が国の雪国は、その地理的・気候的な特性を生かした研究開発が盛んであり、雪氷に関する研究分野で世界をリードする地域となることが期待されている。
- 雪国は、明瞭な四季、豊かな自然環境を保持するとともに、20世紀型の経済発展の中で人々が見失いつつあった伝統・文化などの資源を残している地域であり、ゆとりや安らぎを取り戻すいやしの空間を提供してくれる観光地域としての機能が期待される。
- 雪はそれ自体が観光資源である。雪国としての地域特性を活かした観光資源は、国内ばかりなくアジア近隣諸国等、雪国以外の地方の人々にとって、貴重な観光スポットである。雪国は、これからも、雪を用いた祭りやイベント、ウインター・スポーツなど、雪国独特のレクリエーションや観光などを豊富に提供できる地域であり、アジア諸国との交流が一層促進されれば、アジアにおける冬期観光の拠点の機能が期待される。

Column

～冷熱資源としての雪活用～



氷室(岩手県沢内村)



雪室(山形県村山市)

資料:東北雪対策連絡協議会

■豊富な国土資源の経済、社会への貢献

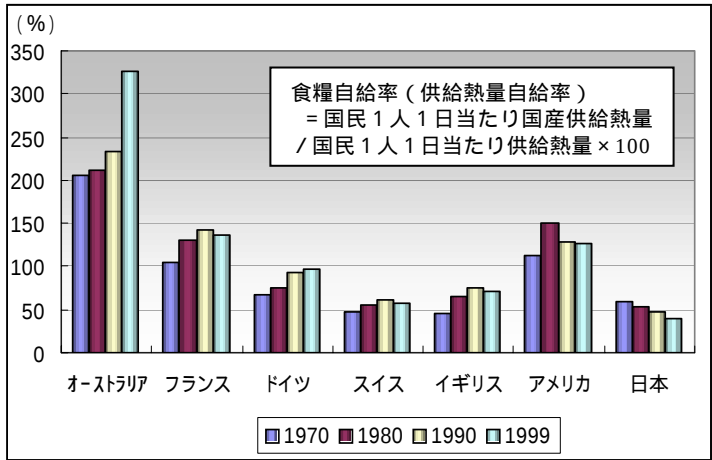


図8 主要先進国の食料自給率(%)

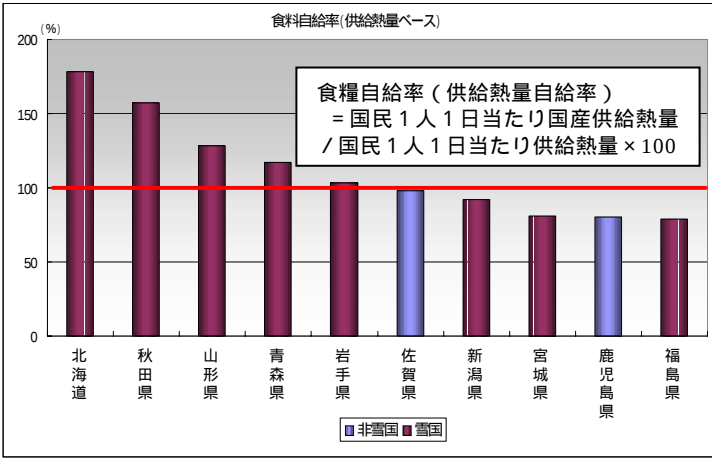


図9 国内の食料自給率(%)

資料:平成13年度食料自給率レポート(農林水産省)

雪国の地理的・気候的な特性を生かした研究開発事例

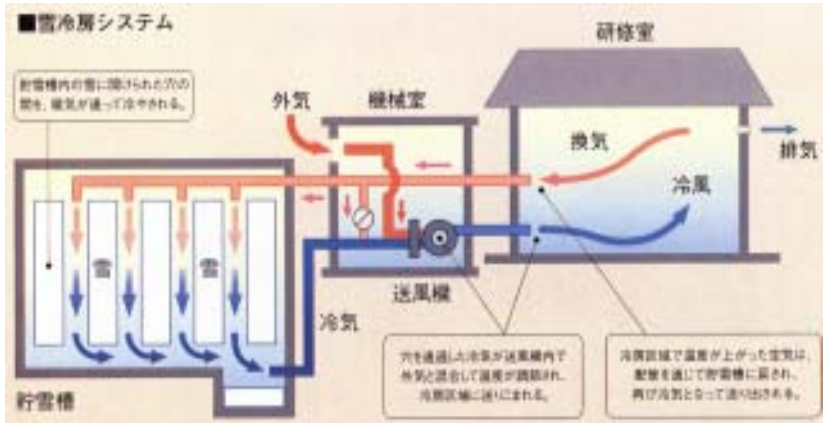


図10 雪冷房システム(山形県舟形町)



資料:平成13年東北雪対策連絡協議会

■美しい自然と歴史ある伝統、文化の活用

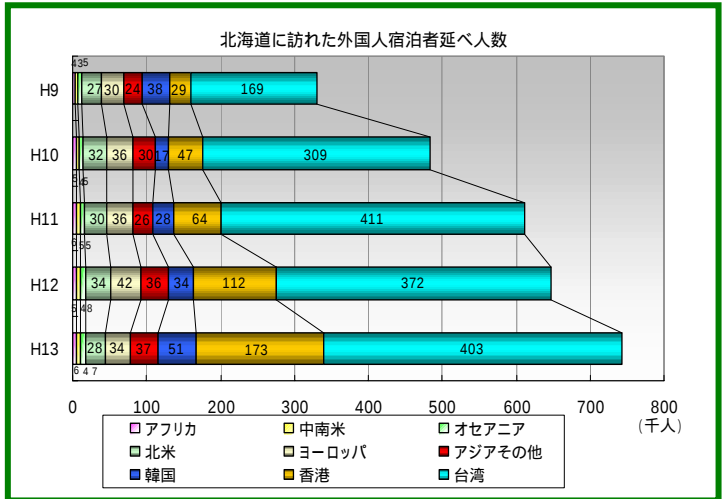


図11 北海道へ訪れた外国人宿泊延べ人数の推移

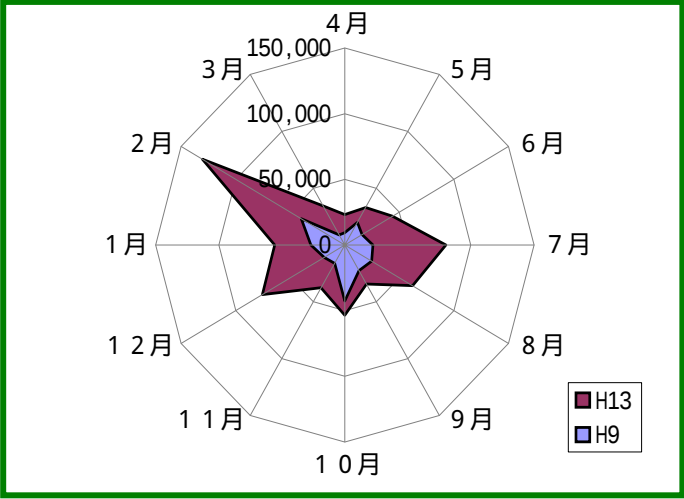


図12 北海道へ訪れる月別訪日外国人(アジア地域)宿泊延数

資料:北海道観光入込客数調査

■ 少子高齢化社会における地域づくりの先導的役割

少子高齢化社会における
地域づくりの先導的役割

- 我が国が高齢化社会に移行する中で、雪国は全国平均を上回るスピードで高齢化が進行しており、今後この傾向はますます加速することが予想されている。
- 雪国は、雪国以外の地域がこれから経験する高齢化社会を現在体験している段階にある。雪国は我が国の21世紀における持続的な発展を遂げるため、高齢化、除排雪などの地域住民に直結する課題に対する地域づくりを先導する役割を担っている。

加速する高齢者割合

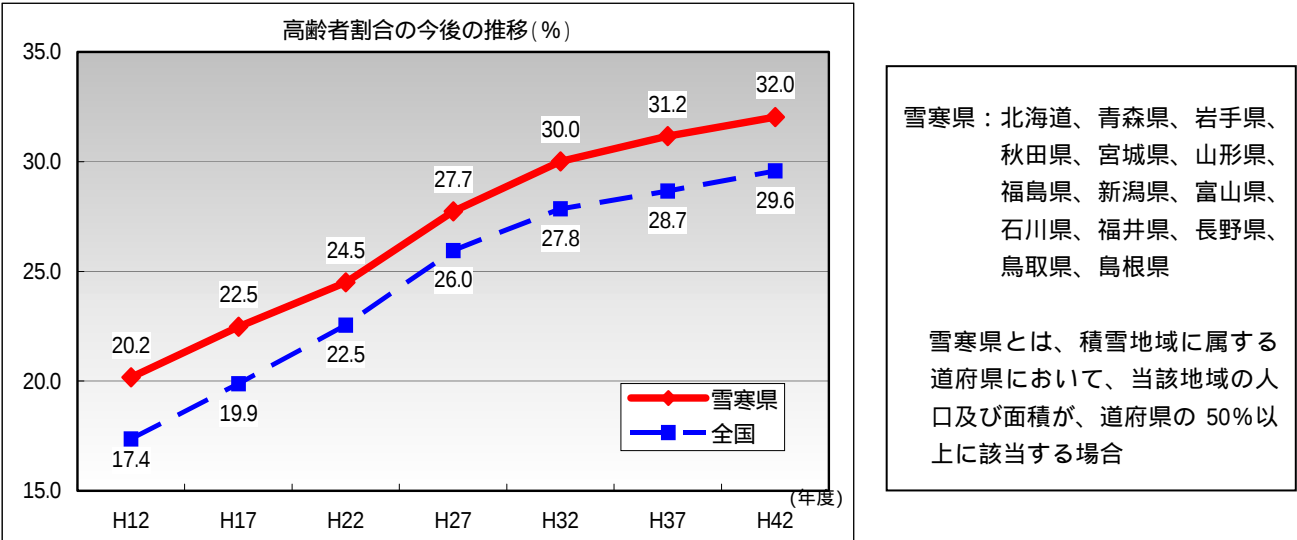


図 13 高齢者割合の今後の推移 (%) 資料：国立社会保障・人口問題研究所

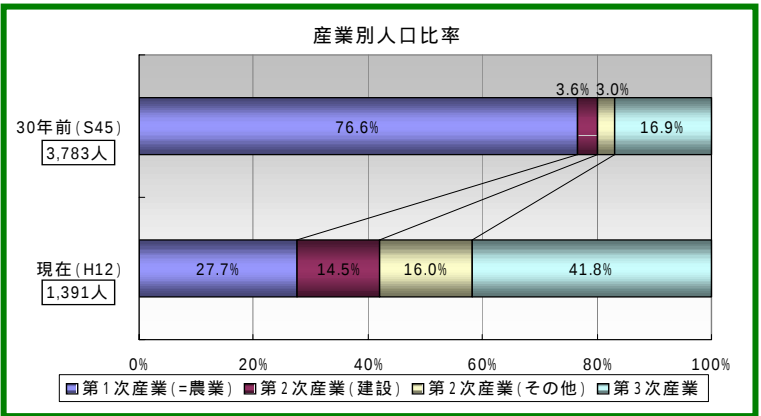


図 1 4 新潟県 A 町における産業別人口比率

・ 就業者が第二、三次産業へ移行し、農業人口が減少。

・ 若者の農業離れ、農業従事者の高齢化が進行。

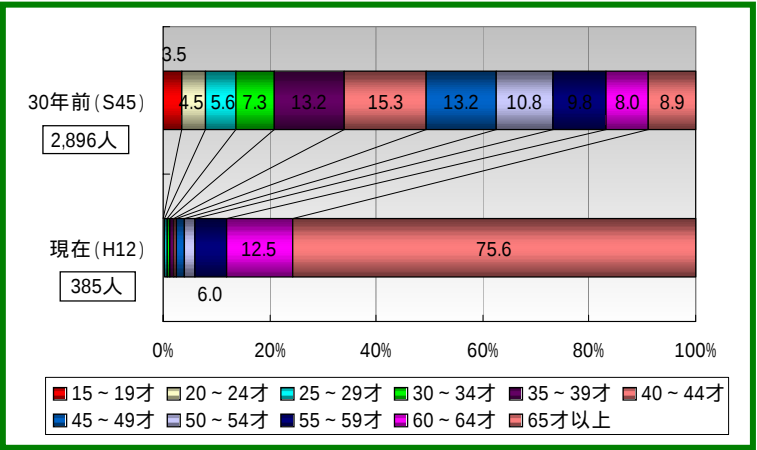


図 1 5 新潟県 A 町における年齢別農業就業者

資料：国勢調査

Column

～雪国の地域づくりの事例(コンパクトな街づくり)～



将来都市構造の概念図 (青森市)

資料：H11年青森都市計画マスタープラン

- 都市がコンパクトになると
- 通勤渋滞の緩和
 - 近郊緑地や農地保全
 - 中心市街地の活性化
 - 自然・地球環境の保護
 - 高齢者の商店街、公共交通施設等の利用促進